

# 学力向上に向けた取組

## 1 課題

○基礎的・基本的な知識・技能の確かな定着

## 2 課題解決の具体策

- ①算数におけるパソコンを利用したフラッシュカード計算練習
- ②漢字における定期的な復習テストの実施



## 3 取組の概要

### ★①について★ <点検項目用紙～抜粋>

			A	B	C
1年	3つのかずのけいさん	3+1+2の ような けいさん			
		8-3-3の ような けいさん			
		15-5-4の ような けいさん			
		5-4+9の ような けいさん			
		4+6-3の ような けいさん			
	たしざん(2)	6+8の ような たしざん			
		5+6の ような たしざん			
	ひきざん(2)	14-8の ような ひきざん			
		13-5の ような ひきざん			
	3つのかずのけいさんチャレンジ	7+3+10の ような けいさん			
19-10-1の ような けいさん					
12+3-10の ような けいさん					
6年	倍数と約数	最小公倍数			
		最大公約数			
	分数のたし算とひき算	分数のたし算			
分数のひき算					

- ・校内のパソコンに入っている算数ソフト。この中のフラッシュカード機能を利用し、計算練習に取り組んでいる。得意な子においても、スピードをあげてチャレンジすることができるメリットがある。
- ・子ども達は審査員役、答える役に分かれて実施。フラッシュカード合格項目用紙を作り、できた項目をチェックしていく。教師側も児童の実態をおさえることができるし、児童自身も課題をもって取り組んでいた。合格スピードが鈍ってきた子については、教師と一緒に練習を行う。
- ・どの学年のどの項目からも取り組んでよいため、自分で考えながらチャレンジし、各児童が合格項目を増やしていった。

- ・テストの表現処理項目においては、1学期は68%だったのが、2学期は、分数のかけ算わり算の単元がある中でも84%まで伸びていた。

### ★②について★

- ・テスト形式は、テスト会社から送られてくるCDの中の50問テストを使用する。抜き打ちで書ける漢字については、ほぼ練習をしなくても書けることから、とにかく1～6年生までの漢字テストを行うことで、実態把握に努めた。小学校で習うすべての漢字で結果を一覧表にしていくと、面白いことに個々の児童の実態だけではなく、クラスの傾向も浮かび上がった。
- ・一覧表からは「誰がどの漢字を書けていないのか」「5年の漢字よりも4年の漢字の方が書けていない」「この漢字はクラスの全員が書ける漢字だ」「この漢字はクラスの9割が間違えている」「3年生の漢字からつまり始めている」などといった傾向が浮かび上がった。
- ・傾向が分かった所で、間違えた漢字だけを集めた別紙の50問練習用紙を作成して、家庭学習として行わせる。そして期間をおいてそのままのプリントを使用してテストを行う。この繰り返しを行うことで、1・2・3年の漢字のクラス正解率が7割から9割にアップした。

### <漢字結果一覧表～3年の漢字10月段階>

	短	漢	身	他	談	礼	福	皮	起	追	飲	写	荷	対	整	等	筆	助	洋	転	3年の合計	3年合計割合	
A	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○		○	○	○	○		○		170	85%	
B	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		194	97%
C	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		183	92%
クラス正解	15	17	15	16	15	16	15	15	15	12	13	15	9	11	13	14	14	5	16	6		84.7%	
クラス間違い	2	0	2	1	2	1	2	2	2	5	4	2	8	6	4	3	3	12	1	11			

## 4 成果と課題

- 児童の実態把握がきちんとできるので、児童の実態に合った基礎的内容を繰り返し練習することができた。
- 結果がそのまま引継ぎ資料となり、次の学年でも学習指導に生かすことができる。
- 復習内容なので、授業の進度、学校行事等を考えながら時間の確保を計画的に行わないと、継続して取り組み続けていくことは難しい。